

epooca

静岡県男女共同参画センター・あざれあ情報誌

エポカ vol.121

2016年 8月号



特集：子どもの権利を守る！

～学生NGOの取り組み～

カンボジア・コンポントム州にて、元気いっぱいの子どもたち。
「静岡学生NGO あおい」は、子どもが子どもらしく生きるために、
子どもの権利（特に児童買春の危険性）の啓発活動をしています。



中村祐介さん（静岡学生 NGO あおい代表 / 静岡県立大学 国際関係学部 3年）

★カンボジアの児童買春をなくしたい！

「静岡学生 NGO あおい」は、静岡県立大学のサークルとして2004年に発足しました。カンボジアの児童買春問題に取り組んでいます。発足当時、私たちにどのような国際貢献ができるか、さまざまな議論を重ねながら活動内容を模索してきたなかで、アジアの児童買春の実態が私たちの胸に深く突き刺さりました。そして、アジア各国を現地調査した結果、カンボジアの児童買春の問題が一番深刻ではないかという結論に至ったのです。学生が扱う内容としては難しすぎるという意見もありましたが、私たちはどうしてもこの問題に取り組みたいと思いました。

児童買春を引き起こす原因としては、教育に対する意識が低い、貧困などの問題があります。特にカンボジアでは、現在の親世代が子どもだった時代、ポル・ポト政権下で教育を満足に受けられなかった人が多いことが挙げられます。教育を受けられなかった親たちの中には、読み書きができない人もいて、そういった人たちは仕事を見つけるのも難しいため貧しく、子どもに教育を受けさせないどころか、生計を立てていくための手段として、子どもを売ってしまうという実態があります。



教育が子どもたちの未来をつくる

そういった問題に取り組むために、具体的には、春と夏の年2回、年間通してプロジェクトが行われているカンボジアへ赴き、児童買春を未然に防ぐための活動をしています。児童買春の被害者の支援ではなく、被害にあってしまうような環境を未然に防ぐための教育活動が NGO あおいの特徴です。現地（コンポントム州）の NGO である CCPCR とパートナーを組んで、現地の村々の子どもやその親たちを対象に、子どもの権利や児童買春の危険性などについて、ワークショップを通して啓発していくというプロジェクトを実施しています。そこでは、子どもの権利を実生活と照らし合わせながら、どのようにしたら子どもを守ることができるのかを考えていきます。こうした活動は、大人が子どもの権利も守り、子どもが健やかに育つことのできる環境の構築につながります。

パートナーを組んでいる現地の NGO とは毎回ミーティングをし、また年間通して行われているプロジェクトの途中経過などを評価するために、現地の人々に対してインタビューを実施することで、どれくらい人々の知識が定着したかを調査しています。その他に、日本文化の紹介などもしています。

現地に行くと感じるのは、人々の明るさとたくましさです。辛い現実を力強く生きている姿に触れると、彼らから学ぶことがたくさんあると感じます。カンボジアの文化で特に感銘を受けるのは、人々が持つ“感謝の気持ち”です。素直に出る感謝の気持ちが目に見える形であふれています。そんなカンボジアを多くの人にもっと知ってもらいたいです。



現地の NGO (CCPCR) とミーティング

第3回 あいのうた

出会いから子育てまでの短歌コンテスト

【募集期間】平成28年9月30日（金）まで
（当日消印有効）

【募集部門】一般の部、ジュニアの部
（高校生に相当する年齢以下）

【応募資格】どなたでも御応募いただけます。

【審査員】俵 万智氏（歌人）、田中 章義氏（歌人）

【応募方法】郵便、FAX 又は専用 HP で受け付けます。

※詳細はあいのうた事務局までお問合せいただくか、専用 HP を御覧ください。

【応募・問合せ】あいのうた事務局 TEL 054-284-6754 URL <http://www.ainouta-shizuoka.jp>

【主催】静岡県健康福祉部こども未来課

関連イベント

「講演会～短歌っておもしろい！今、短歌がブーム～」

【日時】平成28年8月25日（木）14：00～15：30

【会場】静岡音楽館 A O I

【講師】田中 章義氏（歌人）、小島 なお氏（歌人）、
石川 一郎氏（月刊「短歌」編集長）

「短歌教室～親子でも参加可能な初心者向け短歌教室～」

開催日	会場
8/29(月)	静岡商工会議所
8/30(火)	三島商工会議所
8/31(水)	アクトシティ浜松

時間はすべて14：30～15：30



●20周年を迎えて「農の豊かさ」をさらに伝えていく

「あいら伊豆農業協同組合(JAあいら伊豆)」は、平成8年、熱海農協と伊東市農協が合併して誕生。今年4月、合併20周年を迎えた。今年は20周年記念として、毎月1回年間通して計12回、各支店がそれぞれイベントを行う。農産物が当たる福引きや野菜の直売会、ミニトマトすくい、カレーセットがもらえる輪投げなど、楽しみながら「食と農」に触れていただく。

「この20年間で農協を取り巻く環境は大きく変化しました。最近では、TPP大筋合意による日本の農業への影響や、農協の根幹を揺るがすような改正農協法が施行されたことが挙げられます。また、農業従事者の高齢化、担い手不足など課題は尽きませんが、この20周年イベントを通し、これまで地域の農業を支えてきてくれた組合員や地域の方々に恩返しをしたいです」と総務課長の太田将司さんは語る。

この地域の特産物は、だいたいや青島みかん、キウイ(レインボーレッド)、いちじくなど。特にお飾り用だいたいは日本1位の生産量を誇る。お飾りに使われるもののほかに、だいたいのポン酢やサイダー、マーマレードなどの加工品も生産し、販路拡大を狙う。

平成25年から、地域貢献として小学校等に出向き柑橘の授業も行っている。「みかんの種類」や「地域のみかんの特徴」などについてJAあいら伊豆の職員が生徒に説明するほか、実際にみかんの木をみんなで植えて成長を見守ることで、農業のすばらしさを子どもたちに伝えている。その他に、今年度から「女性大学」と称し、子育て世代の女性を対象に「食と農」に関連した講座を計画中。高齢化が進むJA女性部の次世代育成を目指している。



総務課の太田将司さん(左)と杉本憲也さん



ドッジボール大会で職員の連帯感を高める

●風通しのよい職場づくり目指す

去年(平成27年)10月、宣言事業所として登録。産休・育休を取得したほとんどの女性職員が職場復帰するなど、女性職員がそれぞれのライフイベントを経験しつつも仕事を継続できる職場環境がある。

総務課職員杉本憲也さんは語る。「JAあいら伊豆では、地域の農協として貢献するために風通しのよい職場づくりを目指しています。そのためにはまず、働く職員が自分たちの仕事に愛着を持つことが必要だと考えます。職員のつながりを大切にするため、職員全体でドッジボール大会などを実施しています。また、伊東・熱海地域では、若者がUターンして地元に戻ってきててもなかなか就職先がない中、当事業所では若者を積極的に採用しています。今では若い職員が増え、彼らのモチベーションも高いと感じています。男女共同参画に関する取り組みとしてはまだまだ駆け出しではありますが、試行錯誤しながら進めていきたいです」。

あざれあメッセ 2016 出展者募集！！

【申込締切】8月21日(日)必着 【開催日時】10月29日(土)10:00～15:00

詳しくは→「あざれあナビ」をご覧ください！



デートDV防止サポーター養成講座 第1回(公開講座)

レンアイ、基本のキ

～中高生に広がるデートDV～

中高生に向け、デートDVに陥らない恋愛の形について書いた「レンアイ、基本のキ」の著者、打越さく良さんにお話を伺います。子どもと関わる大人のみなさん、すてきな恋愛をしたいと願うイマドキの中高生がハッピーではない関係に陥った時、私たちに何ができるのか、一緒に考えてみませんか……。

【講師】打越 さく良さん

(弁護士・第二東京弁護士会所属)

【日時】8月20日(土) 午後1時～午後4時

【場所】静岡県男女共同参画センター 501会議室

【参加費】500円(定員50名・先着順)

【お申込み・お問合せ】メール：sfsizuoka@gmail.com

FAX：054-255-3805

【主催】特定非営利活動法人 Safety First 静岡

※第2回～第4回講座については、「あざれあナビ」を御覧ください。

詳しくは→www.azarea-navi.jp/event/renai0820/

『買われる子どもたち：無垢の叫び』

(大久保真紀//著 明石書店 1997年)



貧困、無知、都会への憧れと様々な理由で少女・少年たちが人身売買・性奴隷の犠牲にされる現実を取材し、加害者としての日本人にも言及しています。子どもたちを支援し学ばせようとする NGOの地道な取組も報告されています。

『こどもの権利を買わないで：

ブンとミーチャのものがたり』

(横田洋三//監修 大久保真紀//文 森野さかな//絵 自由国民社 2000年)



小さな村で貧しくても穏やかに暮らしていた少女が、「テレビ」のために売春宿につれて行かれる悲劇が、子どもにも理解でき、また、関心を持ってくれるように絵本という形で描かれています。巻末にはより詳しく解説編が載っています。

『貧しい国で女の子として生きるということ：

開発途上国からの5つの物語』

(遊タイム出版//編 ブランジャパン//編集協力 遊タイム出版 2010年)



貧しい国に女の子として生まれ過酷な毎日でも頑張っている少女たちのフォトストーリー集です。その1つに「売春宿のサミタ」があります。数字でみる様々な現実も記載されていて、写真の笑顔と文章のギャップに心が痛みます。



図書室利用案内

貸 出：図書5冊、ビデオ・DVD2本(2週間)
開室時間：月～金 9:00～18:00 土日祝 9:00～17:00
休 室 日：第1・3・5日曜日、図書整理日
TEL：054-255-8763 / FAX：054-255-8759

地元のハンサムウーマン⑤

～地域力を高める女性たち～

河合あき子 さん (湖西市消防団 女性分団 分団長 / 湖西市)



河合あき子さん

★地域を守る!

20代はじめに結婚し、離婚を経験した。離婚後、実家に戻り父の助けをかりて2人の子どもを育てながら、老人福祉施設で働いていた。施設で防災訓練を行うにあたり、もっと防災に関する知識を深めたいと思い、湖西市が募集していた女性の消防団員に応募したのがはじまりだ。消防団に加入してから約8年経ち、現在、20人いる女性分団の分団長を務める。

地域の企業や小学校等で救命講習、放水訓練や規律訓練などの他、団員の防災知識・技術力向上のための勉強会も行う。実際に災害が発生した時、素早かつ確な対応ができるよう、組織体制や役割などについて気を配る。

消防団というと、まだまだ男の世界というイメージが強い。昨今、防災における女性の視点の大切さが唱えられている中、女性も積極的に防災活動に参加するためには、女性自身だけではなく、男性の意識を変えることが重要だと考える。

先日、北海道で開催された「全国女性消防団員活性化大会」に参加した。全国の女性消防団の活動事例発表や防災劇で刺激を受けた。湖西市でも女性消防団としてどのような動きができるか、大規模災害を想定した包括的な訓練を実施したいと考えている。また、女性消防団員が自治会や地域の方々と対話する場を多く作ることで、地域の防災意識を普段から高めたい。

約5年前、消防団で知り合った現在の夫と再婚した。夫はお寺の住職で、消防団長を務めた経験もある。地域の避難所になっているお寺は、同じく避難所になっている近所の小学校より海拔が高く、かつ松見ヶ浦(浜名湖)からも離れており、大津波が起きたときの住民の最後の砦だ。夫婦で共に地域の防災に力を注ぐ。



女性の力が地域の防災を変える!

あざれあ相談

悩んだとき、困ったときには「あざれあ」へ

〈女性相談〉

すべて女性の相談員、医師、弁護士による相談です。安心してお電話ください。

- 0558-23-7879 賀茂
- 055-925-7879 東部
- 054-272-7879 中部
- 053-456-7879 西部

※混み合う場合がございます。時間をあけておかけ直してください。

月・火・木・金 9:00～16:00
水曜日 14:00～20:00
第2土曜日 13:00～18:00

※いずれも日・祝を除く

面接

要予約・託児つき・無料
あざれあ女性電話相談の番号におかけください。

月	火	水	木	金
DV・その他暴力 10:00～15:00	偶数月第4 精神科医相談 14:00～16:00	DV・その他暴力 14:00～19:00	DV・その他暴力 10:00～15:00	奇数月第3 精神科医相談 14:00～16:00
	第1・第3 弁護士相談 (離婚・相続等) 13:00～16:00			

〈男性電話相談〉

生き方・家庭・仕事・健康等の悩み
男性相談員が対応します。

054-272-7880

毎月第1・3土曜日 13:00～17:00

〈チャレンジ相談〉

「再就職したい」「起業したい」
「NPOを作りたい」等

予約：054-221-3122

完全予約制 女性限定
託児つき(無料)

偶数月第3土曜日実施：
①13:00～ ②14:00～ ③15:00～
奇数月第3水曜日実施：
①9:30～ ②10:30～ ③11:30～